

環境と社会を
良くする取組を
環境大臣賞として
表彰します。

10th
ANNIVERSARY
GOOD
LIFE AWARD

第10回

ローカルSDGsの実現へ

環境省グッドライフアワード



応募
締切

9月20日(火)までエントリー受付中!

選考スケジュール 応募締切 9月20日(火) 各賞発表 11月中旬 表彰式 12月3日(土)

- 募集対象 環境と社会により暮らしを実現するための活動・ビジネスに取り組む企業・学校・NPO・自治体・地域・個人。
- 応募方法 グッドライフアワード公式サイトの特設フォームによりご応募ください。※詳しくは公式HPをご覧ください。

- 応募締め切り 2022年9月20日(火)
- 応募先 entry@goodlifeaward.jp
- お問い合わせ info@goodlifeaward.jp
03-6804-3858 (9:30~17:30)

グッドライフアワード公式サイト [グッドライフアワード](#) 検索 または <http://www.goodlifeaward.jp>

あなたのエントリー、お待ちしております!





第10回 グッドライフアワード表彰内容

環境大臣賞 総合賞



環境大臣賞 最優秀賞(1取組)

副賞：記念品、表彰状贈呈/
取材ページ・プロモーションビデオの制作・公開



環境大臣賞 優秀賞(3取組)

副賞：記念品、表彰状贈呈/
取材ページ・プロモーションビデオの制作・公開

環境大臣賞 部門賞

実施主体別に優れた取組を選んで表彰します。

※各1取組程度 副賞：表彰状贈呈/取材ページ・プロモーションビデオの制作・公開 ※部門賞は複数受賞あり。また、該当なしの部門もあります。



企業部門

CSRから製品・サービスまで、
企業が実施する取組。



学校部門

小学校から大学まで。サークル
などでの取組でもOK。



NPO・任意団体部門

継続的な取組からイベントまで、
団体が実施する取組。



自治体部門

都道府県や市町村が中心と
なって実施する取組。



地域コミュニティ部門

地域のグループなどが中心と
なって実施する取組。



個人部門

家庭や個人で行っている環
境と社会により取組。



ユース部門

概ね30代以下の次世代を担う若
手を中心として実施する取組。

実行委員会特別賞

実行委員の専門分野などに関わるテーマごとに、優れた取組を選んで表彰します。

サステナブルデザイン賞



益田文和 実行委員長
デザインコンサルタント
株式会社オープンハウス 代表取締役

サステナブルな社会を実現するための
新しい暮らし方、ライフスタイルを
デザインし、実践する取組を表彰します。

子どもエンパワーメント賞



大葉ナナコ 実行委員
一般社団法人 Design of Your Life 代表理事

子どもは未来のオトナたち!
ハッピーな地球の未来、エコな社会を
めざす子どもたちをエンパワーメント
する取組を表彰します。

環境と福祉賞



炭谷茂 実行委員
社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長

福祉の向上とともに、
エコロジックな社会づくりにも
貢献する取組を表彰します。

環境地域ブランディング賞



高橋俊宏 実行委員
株式会社ディスカバー・ジャパン 代表取締役社長
Discover Japan 統括編集長

地域の知恵や考え方を
大切にしたい取組を表彰します。

環境ひとづくり賞



竹ケ原啓介 実行委員
(株)日本政策投資銀行 設備投資研究所
エグゼクティブフェロー

サステナブル経営を通じた、
人材育成や人的資本の充実
への取組を表彰します。

森里川海賞



中井徳太郎 実行委員
環境省 環境事務次官

森里川海とそのつながりを豊かに保ち、
その恵みを引き出す取組や、一人一人が
森里川海の恵みを支える社会づくりに
貢献する取組を表彰します。

環境社会イノベーション賞



藤野純一 実行委員
公益財団法人 地球環境戦略研究機関 上席研究員

環境保全に貢献しつつ、
優れた社会イノベーションを
実現する取組を表彰します。

地球と人への想いやり賞



AMIY MORI 実行委員
Japan Search株式会社 代表取締役CEO
映画監督

「地球や人に、どれだけ自分ごととして考え、
想いやりを持って実行できるか」その想いを通ずる
取組をしている企業や個人、団体を表彰します。

SDGsビジネス賞



森 撰 実行委員
株式会社オルタナ代表取締役・オルタナ編集長
武蔵野大学大学院環境学研究所 客員教授

SDGs「アウトサイドイン」の思考に
基づき、社会課題の解決を起点に
したビジネスの取組を表彰します。

10周年特別賞

グッドライフアワード10周年を記念して、
環境省大臣官房環境計画課及び株式会社ビジネス・ブレークスルーからなるプロジェクトチームが選定し、表彰します。

環境まちづくり賞



谷中修吾 総合プロデューサー
BBT大学 経営学部グローバル経営学科
学科長 教授

突き抜けたアイデアで環境分野の
地方創生まちづくりを推進する
イノベティブな取組を表彰します

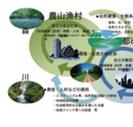
生物多様性賞



アヒル隊長
森里川海アンバサダー

環境省「30by30ロードマップ」を
踏まえて生物多様性を実現する
取組を表彰します。

ロングライフ賞



環境省
大臣官房 環境計画課

中長期にわたって継続的に
環境と社会に貢献している
グッドライフな取組を表彰します。

未来をつくるグッドライフな取組が大集合！

第9回 環境大臣賞 受賞団体一覧



自然を傷つけない屋根上太陽光発電を全国の既存の施設に展開、優しいエネルギー循環を実現！

第9回グッドライフアワード
環境大臣賞 最優秀賞受賞

株式会社
アイ・グリッド・ソリューションズ

商業施設や物流施設といった既存施設の屋根を利用した分散型太陽光発電所を全国的に展開。屋根の活用により、土地を切り崩さず、自然環境に負荷をかけずに再生可能エネルギーの利用を促進。さらに需要・発電予測等を一元的に管理するシステムを構築しエネルギーを効率使用も促進しています。



海のゴミを資源に！漂着した海藻から環境負荷を抑えながら「アルギン酸」を生み出しチリの貧困対策にも貢献

第9回グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞

株式会社キミカ

生きた海藻ではなく、南米チリの浜辺に自然に打ち上げられる漂着海藻を原料に、天然の食物繊維「アルギン酸」を国内で生産。電力・熱源・化学薬品の使用を抑えた製造技術の開発により環境負荷を減らし、同時にチリの漁民から継続的に海藻を買い取ることで乱獲を抑え漁民の貧困対策にも貢献しています。



地元の小学生が湿原で採れるヨシを活用したストローで地球環境保全活動を展開中

第9回グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞

勝山市立平泉寺小学校

地元の湿原で、年間を通して県自然保護センターの協力の下、動植物の個体数調査や水質調査、湿原植物の生長の妨げになるヨシを刈る環境保全活動を展開。さらに3年前より刈ったヨシを活用しヨシストロー製作を開始。プラスチックごみ問題解決を訴えるとともに地域の環境保全活動を展開し次世代育成にも努めています。



東京多摩の森の木材を活用した地産地消の家造りブランド「TOKYO WOOD」を地元企業がチームとなって推進

第9回グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞

株式会社小嶋工務店

東京都多摩エリアの林業会社、製材所、工務店等がチームになり、地産地消の家造りを通じて「森林の健全なサイクル」「CO2排出量削減」という環境保全に寄与する家造りを展開。地域の循環型社会の形成を目指し、利益と社会性を兼ね備えたビジネスモデルを構築しています。



企業部門
兼松サステック株式会社
木材を利用した
地盤補強工法「環境パイル」で
地中への炭素貯蔵を推進

地盤補強材として一般的なセメントや鋼材を間伐木材に置き換える地盤補強工法「環境パイル工法」を開発。日本古来の伝統工法をもとに最新の防腐薬剤から木材加工、施工技術まで一貫して開発し、12年間の活動で累計3万件を超える実績をあげ、国産材の利用を促進し国内の林業活性化にも貢献しています。



NPO・任意団体部門
湘南・省エネネットワーク
20年以上にわたり
湘南の地から幅広いネットワークで
脱炭素社会づくりを推進

湘南地域で、23年間にわたって学校への出前授業、家電量販店の販売状況を調査した省エネ家電への買替促進、多くの団体と連携した脱炭素・省エネ湘南サミットの開催など、様々なネットワークで地域における環境保護の普及啓発活動を幅広く展開しています。



地域コミュニティ部門
宮城県南三陸町
産学官民が連携した生ごみの
再資源化で「森里海ひといのち
めぐるまち」の実現を目指す

東日本大震災の被災時、それまで町外から調達していた電気・石油・ガスの入手が困難になった経験から、バイオマス産業都市構想を定め、生ごみや尿汚泥を電気や液肥に変換するバイオガスプラントを開所、地域内での資源循環の取組を開始し着実に実績をあげています。



自治体部門
岐阜県飛騨市
人口減少先進地の挑戦！地域を
超えて支え合う、「お互いさま」が
広がるプロジェクト「ヒダスケ！」

市民の「困りごと」と参加者の「お助け」がマッチングして持続的なコミュニティづくりを推進、地域を超えた交流と支えあいを創出。参加者には野菜等のお礼や電子地域通貨を使った「オカエシ」を用意するなどにより、地域経済の一助にもなっている。



学校部門
大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
工科高等学校の生徒たちによる
エネルギー循環を目指す
「捨てればゴミ、活かせば資源」

定時制高校の生徒たちが地域と連携し、天ぷら油や不要な油で電気を作る「バイオディーゼル発電機」や排気ガスが出ない環境に優しい「電気自動車」、「プラスチックゴミ」から発電機の燃料になる油を作る「プラスチックゴミ油化装置」も製作。停電時の復旧にも利用して地域の防災にも貢献しています。



個人部門
山崎佐知子
女子高生が個人で「おから」が
産業廃棄物になる前に商品化、
収益を子ども食堂に寄付しています

一人の女子高生が、「食品ロスを減らし持続可能な社会を実現させたい」という思いから、豆腐店から発生する「おから」に注目し、産業廃棄物として処理される前に買い取り、個人でおからと有機オートミール、国産米粉のみを原料にグラノーラを開発し販売。収益は子ども食堂へ寄付しています。



ユース部門
株式会社 Nature Innovation Group
ビニール傘廃棄ゼロを目指す！
傘のシェアリングサービス
「アイカサ」

突発的な雨にもビニール傘をその都度購入せずに質の高い傘をレンタルし、雨が止めば最寄りの傘スポットに傘を返却できるサービスを展開。傘をシェアし使い捨て傘ゼロを実現する社会づくりをミッションとして駅や商業施設を中心に全国に展開しています。

企業、学校、NPO、自治体、
地域コミュニティ、個人…
多彩な顔ぶれが、
環境大臣賞を受賞しています。

グッドライフアワードの
受賞取組は、環境白書や
環境省のPR誌でも
数多く紹介されています。



地域循環共生圏の実現に向けて

環境省では持続可能な循環型社会の実現に向けて、世界共通の目標であるSDGsのもと、「地域循環共生圏」をローカルSDGsと位置づけ、普及啓発と自立分散型社会形成サポートの両面から取り組んでいます。



【地域循環共生圏について】

「地域循環共生圏」は、各地域がその特性を活かした強みを発揮し、エネルギーや食の地産地消など、地域ごとに異なる資源（自然、人材、資金など）が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じた様々な資源を補完し支え合う考えです。私たちの暮らしは森・里・川・海の連関からもたらされる豊かな自然環境に支えられていることを基本として、各地域において新たなバリューチェーンを生み出し、農山漁村も都市も生かしなが、我が国の地域の活力を最大限に発揮することを目指します。



プラットフォーム化事業

環境省ローカルSDGs
— 地域循環共生圏づくり —
プラットフォーム

ローカルSDGsを実践する
ステークホルダーのプラットフォーム化



表彰事業



ローカルSDGsの理念を具現化した
取組を表彰・周知



普及啓発事業

つなげよう、
支えよう
森里川海

SDGsの考えを
個人・企業単位に普及啓発

